

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度 技術情報第17号（普通期水稻の斑点米カメムシ類）について（送付）

普通期水稻の斑点米カメムシ類およびイネカメムシについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/>）にも掲載しています。

令和6年度 技術情報第17号

普通期水稻周辺のイネ科雑草地では、斑点米カメムシ類の発生が平年より多い状況です。特に、イネカメムシによる被害が全国的に増加しており、本県でも多く捕獲されているため、注意が必要です。イネカメムシは、**出穂期**に籾の基部を吸汁するため不稔籾となる恐れがあり、発生が多いと大きな減収となります。イネカメムシの防除時期は、他の斑点米カメムシ類の防除時期（穂揃期と乳熟後期）よりやや早く、出穂期の防除が重要です。

ほ場内をよく見回り、発生が認められる場合は、本田の適期防除を行い、被害防止に努めましょう。

1 対象病害虫 斑点米カメムシ類
(ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシなど)

2 対象作物 普通期水稻

3 情報の内容

(1) 発生地域 普通期水稻地帯（県本土）
(2) 発生場所 水田周辺のイネ科雑草地
(3) 発生量 やや多

4 予報の根拠

- (1) 8月2日～6日に普通期水稻周辺のイネ科雑草地（21地点84箇所）を調査した結果、斑点米カメムシ類の捕獲箇所率は88.1%（平年69.7%）でやや高く、平均捕獲虫数は10.2頭（平年6.9頭）とやや多い（表1）。
- (2) 県全体における斑点米カメムシ類の程度別発生箇所割合は、中程度以上が28.6%（平年21.0%）と高く、過去5年間で最も高い（表1、図1）。
- (3) 種別構成比の割合はホソハリカメムシが44.0%と最も割合が高く、次いでアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシの順に高い（表2）。
- (4) イネカメムシは12箇所で見られ、捕獲箇所率は14.3%（平年7.1%）とやや高く、平均捕獲虫数は0.7頭（平年0.3頭）とやや多い。また、本虫の種別構成比は6.7%（平年4.5%）でやや高い（表1、表2）。
- (5) 本年度、イネカメムシの地域別平均捕獲虫数は北薩平坦で急激に増加しており、地域により発生状況に違いが見られる（図2）。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるので、出穂の10日前頃までに畦畔の草払いなどのほ場管理に努め、発生密度の低下を図る。
- (2) イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類による被害が多い地域では、穂揃期と穂揃期の7～10日後（乳熟後期）の2回防除が基本である。特に乳熟後期の幼虫の発生には十分注意する。
- (3) イネカメムシの発生が懸念されるほ場では、出穂期にほ場を見回り、本種の発生を認めたら、直ちに防除を実施する。なお、周囲と比べて出穂が早いほ場では、本種の飛来が集中し、被害が多くなる傾向にある。
- (4) 防除は農薬の使用基準を遵守し、農薬がほ場外に飛散しないようにする。

6 参考データ

表1 普通期水稲周辺のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類の地域別捕獲状況
(令和6年8月2日～6日)

地域 ^{注1)}	調査箇所数	捕獲 ^{注2)} 箇所率	平均捕獲虫数	程度別発生箇所割合(%) ^{注3)}					中程度以上の発生割合合計
				甚	多	中	少	無	
南薩	20	75.0	6.1	0.0	0.0	20.0	55.0	25.0	20.0
北薩平坦	28	89.3	15.1	7.1	10.7	21.4	50.0	10.7	39.3
北薩山間	28	96.4	10.4	0.0	10.7	17.9	67.9	3.6	28.6
大隅	8	87.5	4.2	0.0	0.0	12.5	75.0	12.5	12.5
県全体	84	88.1	10.2	2.4	7.1	19.1	59.5	11.9	28.6
県全体 ^{注4)} 平均	114.8	69.7	6.9	1.2	3.1	16.7	55.1	23.9	21.0

注1) 南薩:日置市, いちき串木野市, 南九州市,
北薩平坦:阿久根市, 出水市, 薩摩川内市, 霧島市, 始良市,
北薩山間:薩摩川内市, 伊佐市, さつま町,
大隅:鹿屋市, 曾於市

注2) 捕獲箇所率(%)=捕獲箇所数/調査箇所数×100

注3) 発生程度基準:すくい取り調査(捕虫網20回振り)の捕獲虫数(甚:61頭以上, 多:60~31頭, 中:30~11頭, 少:10~1頭, 無:0頭)

注4) 平均は過去5か年(2019~2023年)の平均値

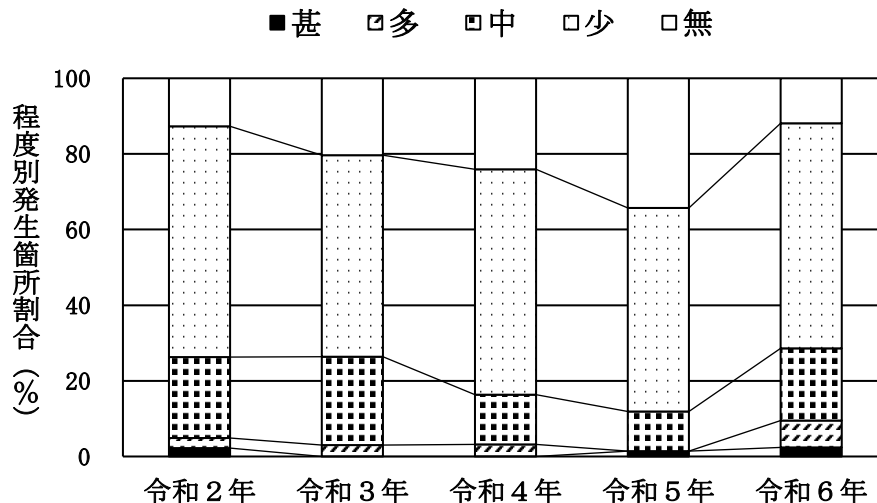


図1 普通期水稲周辺のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類の程度別発生箇所割合の推移

表2 普通期水稻周辺のイネ科雑草地における種別捕獲状況（令和6年8月2日～6日）

地域	調査箇所数	項目	クモハリ	ホハリ	ミミアオ	シラホシ	イネ	アカスジ	合計
			カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カスミカメ	
南 薩	20	平均捕獲虫数 ^{注1)}	1.4	3.2	0.1	0.5	0.0	0.9	6.1
		捕獲箇所率(%) ^{注2)}	35.0	65.0	10.0	20.0	0.0	30.0	75.0
北薩平坦	28	平均捕獲虫数	1.0	5.5	0.0	0.7	1.9	6.0	15.1
		捕獲箇所率(%)	21.4	64.3	0.0	21.4	28.6	35.7	89.3
北薩山間	28	平均捕獲虫数	0.9	5.3	0	0.2	0.1	3.9	10.4
		捕獲箇所率(%)	21.4	96.4	0.0	14.3	7.0	28.6	96.4
大 隅	8	平均捕獲虫数	2.0	1.8	0.0	0.0	0.3	0.1	4.2
		捕獲箇所率(%)	50.0	75.0	0.0	0.0	25.0	12.5	87.5
県全体	84	平均捕獲虫数	1.1	4.5	0.0	0.4	0.7	3.5	10.2
		捕獲箇所率(%)	27.4	76.2	2.0	16.7	14.3	29.8	88.1
		種別構成比(%) ^{注3)}	10.6	44.0	0.2	4.2	6.7	34.3	100.0
県全体 ^{注4)}	114.8	平均捕獲虫数	0.8	2.0	0.1	0.2	0.3	3.5	6.9
		捕獲箇所率(%)	18.0	46.8	2.6	8.1	7.1	37.8	69.7
		種別構成比(%)	10.5	29.7	1.1	2.7	4.5	51.6	100.0

注1) 平均捕獲虫数=総捕獲虫数/調査箇所数

注2) 捕獲箇所率(%)=捕獲箇所数/調査箇所数×100

注3) 種別構成比(%)=捕獲虫数/総捕獲虫数×100

注4) 平年は過去5か年(2019～2023年)の平均値

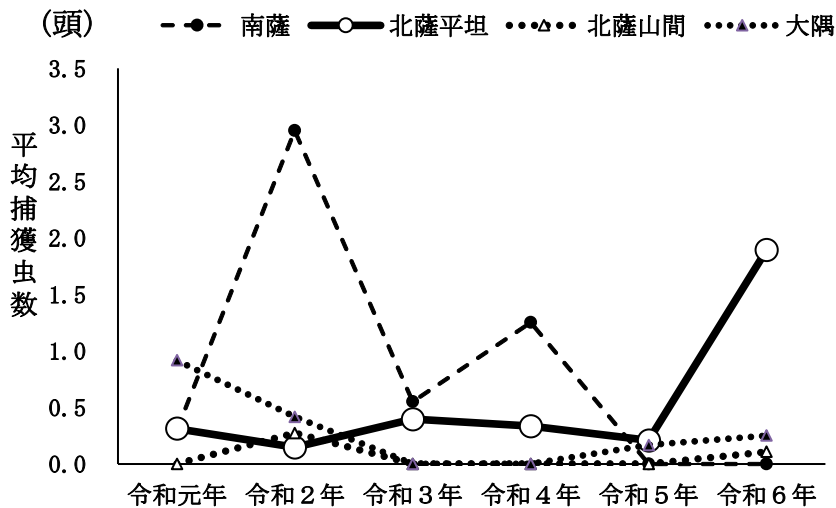


図2 普通期水稻周辺のイネ科雑草地におけるイネカメムシの地域別平均捕獲虫数の推移



成虫

幼虫

穂を吸汁するイネカメムシ

(黄褐色で背部両面に白色帯，体長：約13mm)

(高田浩一氏 原図)

図3 イネカメムシ成虫，幼虫（令和6年8月2日採集）